

キャリア教育新聞

No.3

2025年4月
発行

共創共学
プラットフォーム
(塩尻市教育委員会委託事業)

地域の大人に学ぶ

「はたらく」とは？



二月七日、榑川小中学校の七年生が、主に榑川地区で働く十名の社会人にインタビューを実施した。来年度に控えた職場体験に向け、「はたらく」ことを具体的にイメージすることが目的である。生徒たちは事前授業で「人」や「仕事」についてリサーチを行い、生徒同士で模擬インタビューも実施した。当日は四十分間のインタビューに挑戦。練習の成果もあり、一問一答になることなく、掘り下げた質問ができた。「はたらく」ことへの価値観を学ぶことに終わらず、地元の魅力を再発見したり、インタビューをやり遂げたという自信を得ることができた。

働く人の想いに触れる企業見学

令和六年五月、広陵中学校の二年生が企業見学を行った。共創共学プラットフォームでは受入企業の開拓と、企業への事前説明を行った。事前説明では、従来の「企業紹介や仕事の説明」に加え、「働く人のやりがいや想い」も伝えていただくよう依頼。

当日、生徒たちは話者の具体的なエピソードを交えた話を聞き、はたらく「想い・価値観」に触れることができた。また、受入企業からは「社員の育成やエンゲージメント向上にもつながった。今後このような機会があったら積極的に参加したい」というお声をいただいた。まさに、授業に関わる全員が「当事者」となるキャリア教育プログラムとなった。



プログラムの例

職場体験 企業見学	受入企業の紹介のほか、従来の「仕事を知る」から「企業を知る・仕事を知る・人を知る」へねらいをシフト。
はたらく講座	これからの「はたらくとは」をテーマに講座を実施。
いきはた インタビュー	地域でいきいき働く社会人に対して、インタビューを実施。仕事内容ややりがい、価値観を聞く。
いきはたトーク	人生の先輩（高校生～社会人）と生徒が1対1の対話を行う。自己理解の促進や地域への愛着を醸成する。

キャリア教育、お手伝いします

相談フォームの運用開始！

授業全体の構成について・地域機関や企業の紹介・プログラムの提供・現行の授業のブラッシュアップ・・・
お力になれば幸いです。
こちらのフォームからご相談ください！

- 入力内容
 - ・学校名・担当者・学年
 - ・相談内容・授業の想定時期
 - ・どんなことを学んでほしいか
 - ・連絡先・その他

●相談は約3か月前までに頂けると余裕をもって支援や、協力者集めが可能となります。

※ささいなご相談にも、可能な限り対応しますのでお気軽にご相談ください。



<https://forms.gle/H7MH7Nnu2WUHL3j8>

◆お問い合わせ

共創共学プラットフォーム事務局（NPO法人MEGURU）
塩尻市教育委員会事務局学校教育課（0263-52-0280 内線：3112）

キャリア教育新聞

No.4

2025年5月
発行

共創共学
プラットフォーム
(塩尻市教育委員会委託事業)

塩尻中学校

「地域ふれあい学習」キックオフ

四月二一日、塩尻中学校の総合的な学習の時間「地域ふれあい学習」に向けて、講師の方々と先生方とのキックオフが行われた。二年目となる本授業は、地域の人や歴史、伝統、技術等と関わりながら、探究的に学ぶ塩尻中ならではの取り組みである。生徒が自ら課題を見つけ、主体的・創造的に取り組む態度を育むこと、他者と協働して学ぶ良さや地域とのつながりを実感し、地域の一員としての自覚を育むことを大切にしている。

今年度も幅広い分野の講師の方に、生徒の学びをサポートしていただく。共創共学では、塩尻市のキャリア教育グランドデザインをもとに、現在の講座に上として、キャリア教育の視点や探究的な学びの視点をどう組み込むか、講師や先生方と共に考えながら、授業設計のサポートを行った。具体的には、講師が自身の人生や講座テーマへの想いを語り、生徒と対話する時間を設けることや生徒が自ら考え、地域社会の中で小さく行動してみることなどを提案した。



地域の魅力発信講座
講師 西出さん
(LOCAL NIGHT
PICNIC 運営)

説明を受け、生徒の皆さんの自主性や問いを大切にしながら進めていきたいと思いました。LNPは、地域のみなさんと共に創るイベントにしたいと考えているので、今年度も講座ができて嬉しいです。他の中学校でも、関わりしうがあれば是非お声がけください！



塩尻中学校
担当
原先生

地域の力を借りながら長く続いできた活動ということもあり、いきなり大きく活動内容を変えるのが難しい講座もある中で、探究的に学ぶためのきっかけづくりができたと感じています。講座ごとの年間活動計画にもアドバイスをいただき、活動の見通しをもつことができました。



▲昨年度のふれあい学習の様子

共創共学プラットフォームメンバー紹介

塩尻市学校教育課・商工課

宮川 安司さん

令和五年度末高校教員を退職し、予てから高校生の就職先選択で「給与と休み」に重きが置かれる現状に危惧を感じていましたので、一念発起して商工課会計年度任用職員に令和六年度転職し、市内事業所への訪問を繰り返しました。その中で、「使命感と誇り」をもって事業に取り組み方々との出会いをおして、是非、その思いに子どもたちを触れさせたいと強く思いました。令和七年度、学校教育課と商工課の重籍を得て、キャリア教育コーディネーターとして活動しています。今後ともよろしく願います。

塩尻市キャリア教育グランドデザイン

「塩尻市キャリア教育グランドデザイン」は令和五年度末にキャリア教育委員会等での審議を経て策定されました。学習指導要領等に準拠する中で、塩尻市としてのキャリア教育の目標を二つ定め、その目標に向かう方向性を三つお示ししています。「調べて、見て、体験して終わり」という従前の体験重視の授業から、体験を通して子どもたちが自ら課題を設定したり、情報を収集したりしながら課題を解決していく「探究型キャリア教育」への転換を目指していきます。

各学校でキャリア教育推進に当たっての「道しるべ」にしたいだけだと思います。



塩尻市キャリア教育グランドデザイン

◆お問い合わせ

共創共学プラットフォーム事務局 (NPO法人MEGURU)
塩尻市教育委員会事務局学校教育課 (0263-52-0280 内線: 3112)

キャリア教育新聞

No.5

2025年6月
発行

共創共学
プラットフォーム
(塩尻市教育委員会委託事業)

丘中学校2年生

働く想いに触れる企業見学

六月三日、丘中学校二年生を対象とした企業見学が行われた。今回の企業見学では、仕事内容や職場の様子を知るだけでなく、働く人の想いや価値観に触れることが重視された内容となっている。

共創共学では、学校の依頼を受けて、新たな受け入れ先企業の開拓を支援。今回は、塩尻市内の十四ヶ所の事業所が受け入れに協力した。見学に向けて、学校では生徒に「自分が大切にしている価値観」を考える授業を実施。あわせて、受け入れ企業にも「働く上で大切にしている価値観」を考えていただき、当日はそれを中心に話をしていた。



▲美勢商事(株)食品工場の見学風景
(餃子製造の工程について)

見学は、およそ二名の少人数グループで各事業所を訪問。少人数だからこそ、担当者や生徒の間で双方のやりとりが生まれる機会となった。



生徒の声
一例

自分だけのためではなく、誰かのために働きたい。



生徒の声
一例

収入を得るのはもちろん大切だけど、人の役に立つことや、協力し合うことも大切にして働いてみたいと思った。

丘中学校三年生

探究学習キットオフを実施

丘中学校三年生を対象とした探究学習のキットオフが実施された。共創共学では、テーマオーナー(探究伴走者)のコーディネートを行い、本取り組みを支援している。

生徒たちは事前に自身の関心に基づいたテーマを選定。キットオフ当日は、各テーマの地域事業者を招き、現場で直面している課題や、生徒に考えてもらいたい視点などについて語っていただいた。本年度は、のーとや、高ボッチフェス、ふるさとCM大賞、地域貢献サークル「ダスク」、福祉、空き家問題など、多岐にわたるテーマが設定されている。生徒たちは、グループに分かれ、取り組みたい内容について積極的に意見を交わしており、主体的に学びを深める姿が見られた。

共創共学プラットフォームメンバー紹介

NPO法人MEGURU

昨年度より、教育委員会の委託を受け、共創共学プラットフォームの事務局を担っています。

NPO法人MEGURUは、「地域の人事部」をテーマに法人の人的資本経営の推進や個人の多様なキャリア形成を地域ぐるみで支援しています。

キャリア教育チームでは、学校と地域・企業との橋渡し役として、従来は学校や先生に任せがちだったキャリア教育を地域全体で推進できるよう支援を行っています。具体的には、キャリア教育プログラムの企画・設計や、外部人材のコーディネートなどに取り組んでいます。

塩尻市キャリア教育委員会

五月二十二日に今年度第一回のキャリア教育委員会が開催された。本委員会は市立小中学校に加え、市内三校の高等学校の先生方が一堂に会し、協議や研究をする。今年度は塩尻市キャリア教育グラウンドデザインに基づき、各学校でキャリア教育を推進していくため、これまでの活動実践の共有や今年度の活動方針について協議した。

これまではふるさとキャリア教育を大切にしてキャリア教育を進めてきた。これからは「ふるさと」の教材を活用しながら、発達段階に合わせた「小中高一貫」した「探究型」のキャリアを実施していく。各学校の代表である委員の先生方を中心に各校で計画していく。

◆お問い合わせ

共創共学プラットフォーム事務局 (NPO法人MEGURU)
塩尻市教育委員会事務局学校教育課 (0263-52-0280 内線:3112)

キャリア教育新聞

No. 6

2025年7月
発行

共創共学
プラットフォーム
(塩尻市教育委員会委託事業)

市内小中高校の先生を対象に

福祉教育担当者研修会を開催

六月十三日、塩尻市社会福祉協議会（以下塩尻市社協）が主催する福祉教育担当者研修会が行われた。この取り組みは先生方とともに子ども達に思いやりの気持ちを育むための「福祉教育」を進めていくきっかけ作りとして毎年一回開催している。研修内容としては、福祉教育に取り組む目的、塩尻市社協職員が実践してきた福祉教育実践プログラムの紹介、社協職員と各学校の先生方による意見交換を行った。

福祉教育では「共に生きていくための力」を育むことを大事にしている。高齢者疑似体験やアイマスク体験のような「不便なこと」を体験するだけでは、当事者の方に対してマインスマな印象を受けてしまいがちになる。そこで、当事者と生徒が対話をする事で自分のできることに気づき、考え、行動していくための力を高めるためのプログラムを企画・実践している。そのためには教育現場の先生方との協働が欠かせないため、今後の福祉教育の推進には先生方との意見交換の繰り返しが必要であると主催者・塩尻市社協の担当者は述べていた。



▲ 研修会の様子



参加した先生の声

初任で、福祉教育がどのようなものかわかっていない所も多かったので、よい機会でした。



参加した先生の声

地域との交流を検討していたのですが、意見交換でアドバイスをいただけことで活動のヒントを得ることができました。



▶ 意見交換の様子

共創共学プラットフォームメンバー紹介

塩尻市社会福祉協議会

塩尻市社会福祉協議会では「みんなが安心して、しあわせに暮らせる地域づくり」を目指し市内で地域福祉の推進に係る事業や介護保険サービス、障害福祉サービス等様々な取り組みを行っています。また、地域の担い手の育成を目的として福祉教育の推進にも力を入れており、市内の小中高校へ出向き、様々なプログラムを実践しています。

共創共学プラットフォームの取り組みを通して、子ども達により福祉や地域について関心をもってもらえるような活動を今後も展開していきたいと思っております。

塩尻市キャリア教育支援協議会

六月五日（木）に、本年度初回となるキャリア教育支援協議会が開催された。今回は任期満了に伴い新委員が出席する中で、新会長に岡崎滋樹氏（松本大学准教授）が選出された。新委員の構成については、産業界が増員（六名から八名）され、各産業分野の実情を学校側へ伝えやすくするとともに、学校との情報交換の中で、学校への支援内容を産業界が具体的に考えやすくするなど、学校と産業のパイプを強化するねらいをもつものとなった。

◆ お問い合わせ

共創共学プラットフォーム事務局（NPO法人MEGURU）
塩尻市教育委員会事務局学校教育課（0263-52-0280 内線：3112）

キャリア教育新聞

No.7

2025年8月
発行

共創共学
プラットフォーム
(塩尻市教育委員会委託事業)

職場体験ラッシュ

市内五校で実施される

7月は市内の5つの中学校で2年生を対象とした職場体験が行われた。榑川小中学校では、職場体験のねらいを明確化し、職場体験の中で①仕事を体験する機会②働く想いに触れる機会③生徒が何かチャレンジできる機会の3点を可能な限り設けてもらうよう受け入れ事業所に依頼をした。中には学校の希望を実現させるため、学校からの依頼を受け、受け入れ事業所の開拓や受け入れ担当者に對して「働く大人の価値観」をテーマにアンケートを行うなどの支援をした。

事前学習で生徒は、体験事業所を調べるとともに大人との対話で深めたいことを考えた。

職場体験当日は、仕事を体験することはもちろんのこと、働くことについて大人と対話をしたり、プレゼンに挑戦したりする生徒の姿が見られた。また、受け入れ先を可能な限り大門地区の事業所から選定したことにより、距離が近い事業所間では一部の体験を連携して行なうという新たな動きが見られた。子どもたちが将来どのように働きたいかを体験的に考えることのできる職場体験は貴重な機会であるが、体験をして終わりにならないよう、受け入れ事業所とねらいを共有し、事前事後学習を計画的に実施したりすることが大切である。



▲よう壁ブロックの重さを体験
(清沢土建(株)にて)



生徒の声
(建設土木業を体験)

将来、JRで駅員として勤めたいと思っていますが、線路の保線には建設土木工事がなくてはならない仕事なので、体験したくて希望しました。会社の方の説明を聞いていると、この仕事が私たちの生活を守ってくれていることがよくわかりました。大雪が降った時や災害発生時には、その陰で懸命に復旧に働いている方のことを思い出したいです。



先生の声

3日間無事に終了することができました。(事業所から)子どもたちは宝物のような言葉をたくさんいただき、すてきな姿をたくさん見せていただいたようです。みな(生徒)楽しかった!行ってよかった!と振り返っていました。

共創共学プラットフォームメンバー紹介

塩尻市中央公民館

館長 青柳信雄

塩尻市中央公民館長の青柳信雄です。学校教育に携わっているときに、社会教育、生涯学習を学ぶ機会を得ました。親と先生と友だちだけではない魅力ある大人、「ナメの関係」の大人や先輩に出会うことは、子どもたちの成長にとって欠かせないことだと感じました。小中高生が、地域の魅力ある大人と出会ったり、地域の魅力をもてるような体験を積み重ねていくお手伝いできればと考えています。

【7/31開催】塩尻市キャリア教育委員会 第1回研究部会

令和七年度塩尻市キャリア教育委員会では、各校代表の先生方が、三つの研究部会に分かれて、キャリア学習プログラムの開発につながる研究協議を行う部会を企画しました。第一回は、三会場に分かれて三時間程度の協議を行い、校種・学校を超えて同じ課題をもつ五〜七名の先生方は有意義な時間を共にしました。今後、部会ごとに最大二回研究部会が行われる予定です。

- 【部会(委員校種)】
- ・小学校研究部会(小学校)
 - ・企業見学・職場体験研究部会(小中学校)
 - ・探究型キャリア教育アワード発表会研究部会(中学校・高校)

◆お問い合わせ

共創共学プラットフォーム事務局 (NPO法人MEGURU)
塩尻市教育委員会事務局学校教育課 (0263-52-0280 内線:3112)

キャリア教育新聞

No.8

2025年9月
発行

共創共学
プラットフォーム
(塩尻市教育委員会委託事業)

共創共学プラットフォームメンバー紹介

塩尻市教育委員会事務局
学校教育課 教育企画係 瀧沢 快斗

地域で活躍する中高生

この夏休み、市内の公民館やコミュニティ・スクールが実施している小学生対象の学習ひろばやイベントなどに中学生や高校生が参加した。

宗賀公民館の学習ひろばでは、塩尻西部中学校の「孫の手プロジェクト」のメンバーがボランティアとして学習支援を行うとともに、小学生が楽しめるミサンガづくりを企画。材料を用意し、作り方を丁寧に教えていた。丘中学校の地域貢献サークル「ダスク」のメンバーは、地域のイベントや吉田夏ゼミのお手伝いをした。

東京都大学塩尻高校の生徒は、中央公民館のサマースクール公民館の一つのコーナーを企画、運営した。子どもたちの体験を広げる内容になっていて、参加した小学生がこのコーナーで作ったものは、大切な宝物になった。また、同じ生徒は高出公民館で「高出公民館に眠る七つの宝」を企画、同級生の力も借りて実施した。参加した小学生は、公民館で体を動かし、初めてグループになった仲間と話し合いながら活動を楽しんでいた。

このような取組をとおして、中高生は探究力や企画力を高めることができ、地域に関心をもつ機会になった。小学生は魅力的な中高生と接することができ、自分の世界を広げることができた。今後も公民館と学生が協働することで、ボランティア活動や探究学習、地域住民の交流の場が広がっていくとよい。



▲ 高校生とつくるたのしい思い出たいけん



中学生、高校生の声

- ・小学生が積極的に動き、自主的に考える姿を見ることができて大きな収穫になった。
- ・温かく見守ってくれる地域に恩返しをしたい。小学生が喜んでくれて、「また、やりたい」と言ってくれてうれしい。



小学生の声

いろいろな国のことを知れて楽しかった。高校生がわからないことを詳しく教えてくれた。



地域の関係者の声

学習ひろばに参加しているボランティアの皆さんが、中学生の企画や運営を認めることで、中学生の自己有用感が高まり、地域内のよいつながりになっている。

塩尻市キャリア教育アドバイザー 赤井 友美さん

東京都生まれ。(株)リクルートに新卒入社し、約十二年間で三部門、広報、人事などを経験。新規事業制度で複数回入賞。その一つである中学生向けキャリア教育プログラムの起案・立ち上げの経験から、教育の世界に足を踏み入れる。

本市では令和5年度塩尻西部中学校のプログラムをコーディネート。令和6年度より現職に就任。塩尻市のキャリア教育に関わる諸会議及び中学校でアドバイザーとして活躍している。

(株)Asmies代表取締役・(一社)未来教育イノベーション共同代表理事を務める一男一女の母。

◆ お問い合わせ

共創共学プラットフォーム事務局 (NPO法人MEGURU)
塩尻市教育委員会事務局学校教育課 (0263-52-0280 内線:3112)

キャリア教育新聞

No.9

2025年10月
発行

共創共学
プラットフォーム
(塩尻市教育委員会委託事業)

キャリア教育関係者約50名が一同に会する

10月10日(金)にキャリア教育支援協議会とキャリア教育委員会の第2回会議を合同で開催された。塩尻市内の産業(事業所)・市役所・小中高校・公民館に所属するキャリア教育の関わる委員約50名が塩尻総合文化センター講堂に集まり、塩尻市キャリア教育アドバイザーを務める赤井友美氏(株)4Smiles代表取締役)を招き講演会とワークショップを行った。

赤井氏は講演の中で、特に現状についてはOECD諸国にくらべ日本の若者は「日々の生活で不安や憂鬱を感じる」割合が高く、「社会の一員感」が薄い中で、「勉強する意味を見出せない」と答える割合が10%以上いることに対して、子ども達に自己と社会のつながりを意識させ社会の一員として目標をもってチャレンジしていくスキルをつけさせることが必要と訴えた。

ワークショップでは子ども達を取り巻く現状をとらえバックキャスト(逆算的思考)を用い、キャリア教育に係る人々でビジョンを共有し、それぞれの立場でどんなアクションを起こすべきかをテーマに取り組んだ。

具体的には「将来どんな塩尻であって欲しいか?」↓そのために「大人は、子どもはどうあるべきか?」↓そして我々は「どんなアクションを起こすべきか?」と逆算的思考で考えることで、目の前の課題を解決する対処的な方法ではなく、根本的な解決に向けて参加者が様々な意見を出し合った。



▲ ある班のワークショップの成果物

赤井氏講演要旨【現状把握編1】

若者の意識についての現状 (OECD諸国との比較)

自国の将来に明るい見通しをもてず日々不安や憂鬱を抱え社会の中での自分を見出せない割合が高い。その中で約10%の若者が何のために勉強するかの意味が見いだせなくなっている。

参考

- 日本 (12.7%)
- 米国 (3.4%)
- 英国 (2.4%)
- 中国 (0.2%)
- 韓国 (2.8%)
- インド (0.8%)



両小野中学校
松嶋先生

先生以外の方たちと一緒に、子どもたちの将来についてだけでなく、市全体のこれからについて考えることができ、新たな視点を獲得することができました。



都市大塩尻高校
天井澤先生

多くの学びを得る機会となりました。講師の赤井氏がお話されていた「若者自身の興味や好奇心を育む教育環境」の創出。この点を再認識した次第です。会で共有された認識のさらなる広がり、提案されたアイデアの可能な点からの実践ができた。さらに、僕自身もそうですが、大人が学び続けること。これからの社会(塩尻)を創出する可能性を秘めた会に感謝するとともに、今後の展開を大いに期待しています。

合同会議の感想

◆お問い合わせ

共創共学プラットフォーム事務局 (NPO法人MEGURU)
塩尻市教育委員会事務局学校教育課 (0263-52-0280 内線: 3112)

キャリア教育新聞

No.10

2025年 11月
発行

共創共学
プラットフォーム
(塩尻市教育委員会委託事業)

桔梗小キッズお仕事チャレンジ

地域のお仕事を体験的に学ぶ

12月15日(土)に桔梗小学校において、桔梗小コミュニティ・スクールによる「キッズお仕事チャレンジ」が開催された。コミュニティ・スクール内に立ち上げた実行委員会による本活動は今回で6回目を迎える。平成36年度に第2回目を開催し、コロナ禍でも実施形式を柔軟に変更しながら継続するなど、毎年アップデートを続けている活動である。

今年度は建設・福祉・飲食・製造・輸送・美容・販売などの事業所や消防署・自衛隊・市役所など計5回のお仕事体験講座が準備され、参加した児童計100名がコースに分かれて一人1つの講座を受講した。コースは低学年コースと高学年コースに分かれており、参加児童が多い低学年は5つのコースに分けるなど参加者のニーズに応じた工夫がされていた。「講座5分間で行われ、児童は仕事について説明を聞いたり、質問をしたり、実際に体験をしたりした。

本活動は「第5回キャリア教育 優良教育委員会、学校及びPTA団体等 文部科学大臣表彰」を受賞している。子どもたちが地域の大人から仕事の魅力を楽しく学べるように毎年企画されている。実行委員が中心となって企画されているが、講座の講師や当日の運営ボランティア、PTA、学校の教職員など多く関係者が協働し、共創している。



飯田直希さん
(低学年向け「きこりさん」講師)

今回は、お仕事をメインで話をしましたが、機会があれば、山や森についてもっと多くの子どもに話をしていければと思います。自分の話が、参加してくれた子どもたちの、誰かの将来に少しでも影響を与えられていければうれしいです。」

「自身の住んでいる場所がどういうところか?どんな風に木を切っているか?子どもが知らないことを聞いた時に目が輝いてみえる瞬間が何とも言えませんでした。」



▲低学年「きこりさん」(塩尻市役所耕地林務課 飯田直希さん)

赤井氏講演要旨【現状把握編2】

受け皿となる社会について
(OECD比較)

日本は働くことを通じて幸せを感じている人も不幸せを感じている人も少ない(幸せ49.1%【74.7%】不幸せ18.4%【28.7%】【平均】)

この理由としては、日本の就業者の「寛容性」は18カ国・地域の中で2番目に低く異質な他者と積極的に関わろうとしない傾向が顕著にみられたためである。このことから、子ども達から見て大人が幸せそうに働いているように見えない可能性が大きい。

授業づくりのお手伝い、ご相談ください

今年度も、企業見学、職場体験、対話的プログラムや探究学習(総合的な学習の時間)など、先生方とともにキャリア教育の授業づくりのお手伝いをさせて頂きました。来年度に向けても、学校や生徒のみなさんの様子に合わせた授業づくりを一緒に考えさせて頂ければと思います。お気軽にご相談ください。

- ◆入力内容
・学校名・担当者・学年
・相談内容・授業の想定時期
・どんなことを学んでほしいか
・連絡先・その他

●相談は約3か月前までに頂けると余裕をもって支援や、協力者集めが可能となります。

※ささいなご相談にも、可能な限り対応しますのでお気軽にご相談ください。



<https://forms.gle/H7MH7Nnu2WUHL3j8>

◆お問い合わせ

共創共学プラットフォーム事務局 (NPO法人MEGURU)
塩尻市教育委員会事務局学校教育課 (0263-52-0280 内線:3112)

キャリア教育新聞

No.11

2025年12月
発行

塩尻市共創共学
プラットフォーム

社会人約六十名が授業に参画 一対一の対話・いきはたトーク

令和七年十一月二十日、丘中学校で「いきはたトーク」が開催された。対象は、進路選択を翌年に控えた二年生一四四名。親や先生などの「タテの関係」、同級生などの「ヨコの関係」ではない、「ナナメの関係」である人生の先輩（地域の社会人・大学生・高校生）と中学生が一対一で対話をするプログラムで昨年度に続き二回目の開催。先輩方は傾聴について学び、自身の人生を振り返る等、二時間にわたる事前研修を受けて臨んだ。生徒にとって「地域にも自分の話を真剣に聴いてくれる大人がいる」「多様な生き方や価値観に触れ視野や夢が広がった」と思える経験となっていることが期待される。



大人になるのが楽しみになった



生徒の声
一例

心が軽くなり、将来が楽しみに思えた。大変なことがあっても、その先に楽しいことがあるとわかった。またこのような機会を設けてほしい。高校生になったら次は先輩として参加したい。



ご協力いただいた先輩

生徒の話を聞きながら自分を見つめ直すきっかけにもなり、想像以上に学ぶことが多かった。生徒の素直な気持ちにハッとさせられることが多く、大人にとってもいい時間になると感じた。



丘中学校
二学年総合担当
谷中先生

1対1の対話に加え、哲学対話を行ったことで、生徒たちが視野を広げ、未来に希望をもつ姿が見られた。前のめりな姿勢や、対話を終えた後の清々しい笑顔をみて通常授業では得られない学びが多くあったのだと強く感じた。



今年度の新たな取り組み

今年度のいきはたトークは、昨年度の先輩の人生を紙芝居で紹介する形式から大きく形を変え、哲学対話を取り入れたプログラムへとアップデートした。このきっかけは先生からの「子どもたちが受け身ではなく、自分の考えを共有したり、他の人の考えを聴く場にしたい」という声であった。正解のない問いについて語り合う哲学対話は生徒の主体性をより引き出すものと期待された。

哲学対話は、日常の気づきや素朴な疑問を起点に、参加者が対等な立場でじっくり考えを交わしていく対話方法であり、結論を出すことではなく、さまざまな人の考えに耳を傾けながら視野を広げていくことを大切にしている。対話を行うにあたっては、「①何を言ってもよい②他者の意見を否定しない③発言せずに聞いているだけでもよい④互いに問いかけるようにする⑤知識ではなく自分の経験にもとづいて話す⑥話がまとまらなくてもよい⑦途中で意見が変わってもよい⑧分からなくなってもよい」というルールを共有した。

事前に九名の先輩は、自分が語りたい問い（テーマ）を生徒に投げかけ、生徒達は関心のある問いに考えを持ち寄った。具体的には、「夢を持つってどういうこと？」「大人になるってどういうこと？」「お金持ちは幸せなのか？」などの問いが投げかけられた。生徒からは、「先輩たちみんなそれぞれの考えを持っていて、全く同じ考えの人が一人もいなくて面白かった」「正解がない質問だったので自分でどう答えを見つけていくかが大切だと思った」などの感想があった。

◆お問い合わせ

共創共学プラットフォーム事務局（NPO法人MEGURU）
塩尻市教育委員会事務局学校教育課（0263-52-0280 内線：3112）

キヤリア教育新聞

No.12

2026年1月
発行

共創共学
プラットフォーム
(塩尻市教育委員会委託事業)

企業見学〜小学校高学年生の取組

去る十二月五日（金）、塩尻市立塩尻西小学校六年二組（担任・中野邦彦教諭、児童数二三名）は、学校に隣接するニデックプレジジョン株式会社塩尻事業所（所長・原義明氏）にて企業見学を実施した。

実施のきっかけは、児童が抱いた「あの工場では何を作っていて、どのような人たちが働いているのか」という素朴な疑問である。同社ではコロナ禍以前、他校の見学を受け入れていたものの、近年は途絶えていた。事業所周辺の清掃活動などを通じて同校の児童と挨拶を交わす機会があったが、さらに深い交流をもちたいという意向もあり、双方の希望が合致して今回の見学が実現した。

学校と事業所との事前打ち合わせでは、「見学して終わり」にせず、探究的な学びに繋げるための工夫が凝らされた。事前学習では、まず同社が手掛けるFA（生産工程の自動化機器）のうち、プラスチック包装をフィルム包装に代替する機器に着目。児童は「日常の製品をどのようにフィルム包装化すれば環境負荷を低減できるか」という提案を検討したほか、働く人の思いを引き出すためのインタビュー内容を考案した。

当日は約二時間にわたり製造工程を見学した。各工程には説明パネルが用意され、担当者が丁寧に解説。特に、出荷直前のFAを実動させる場面では、児童たちは引き込まれるように見入っていた。



見学後の社員との交流会では、「どのような思いで仕事をしているか」という問いに対し、社員からは「自分の手掛けた機器が滞りなく動くことを第一に考えている。不備があれば大きな影響が出てしまうため」といった回答があり、児童は働く大人の責任感に直接触れることができた。今後、六年二組では事後学習として学んだ内容を壁新聞にまとめ、グループごとに発表を行う。二月の保護者参観日には、事業所関係者を招いての発表会も予定されている。

企業見学の感想



児童の声

ニデックプレジジョンでは、半導体を作る機械とか、いろいろなものを作っていることがわかりました。生活に欠かせないものを作っているのはすごいと思いました。



塩尻西小学校
中野先生

ニデックプレジジョンが近くにありながらも、どんな会社で、どんな仕事をしているのか知りたいと学習を始めました。実際にお仕事を見たり、働く方々のお話を聞いたりすることで、子どもたちの視野が広がったのではないかと思います。

赤井氏講演要旨【現状把握編3】

幸福と自己決定について

東京都医学総合研究所の2020年の発表によると、思春期に形成された価値意識が、高齢期の人生満足度にどのような影響を与えるかを予測できることが明らかになった。

具体的には、「金銭や安定した地位」を重視する外発的価値意識と、「興味や好奇心」を重視する内発的価値意識の影響を調査している。自己コントロール力が高い層では、どちらの価値意識を持っていても将来の人生満足度に大きな差はないが、自己コントロール力が低い層では、外発的価値意識を強く持っていた人の将来的な満足度が顕著に低くなること示唆されている。

この結果から、若者に対して経済的成功や安定のみを強調するのではなく、個々の興味や好奇心を育む教育環境を整えることが、活力ある超高齢社会の実現に向けた重要な施策であると考えられる。

◆お問い合わせ

共創共学プラットフォーム事務局（NPO法人MEGRU）
塩尻市教育委員会事務局学校教育課（0263-52-0280 内線：3112）

キャリア教育新聞

No.13

2026年2月
発行

共創共学
プラットフォーム
(塩尻市教育委員会委託事業)

未来を切り拓く探究心が集結

〜第一回塩尻市みらい探究アワード発表会〜

令和八年一月三十一日(土)、塩尻市教育委員会主催による「第一回塩尻市みらい探究アワード発表会」が開催された。

発表会には、中学校・高等学校・一般部門の代表計八組が登場。各発表者は、スライド発表形式で、八分間のプレゼンテーションと六分間の質疑応答に臨んだ。テーマは「自己の将来やこれからの地域や社会をよりよくするために、私たちができることや考えたこと、または実践した(・している)こと」。

発表の内容は、地域課題の解決から持続可能な社会づくりまで多岐にわたり、来場者からは「立場の違う様々な発表が聞けて良かった」「地域づくりにも繋がる」といった声が聞かれた。審査員からは「社会課題を自分たちの身近なところに落とし込み、自分たちでできることを試行錯誤をしているところが素晴らしい」などの講評があった。

発表の他にも塩尻市教育委員会講演や東京都市大学の五十嵐美樹准教授による特別講演が行われた。教育委員会からは、探究学習等の必要性が説明され、保護者や企業、地域の方々に理解と参画を求めた。五十嵐准教授からは、「先人たちが探究・研究してきたことが今の社会をよりよくしている。皆さんも探究心を大切にしてほしい。」とメッセージが送られた。



▲ 探究してきたことを発表する高校生



中学校部門
発表者の声

同年代だけでなく多くの観客の前で発表するのは緊張したが、自分になかった観点を得たり、疑問に思ったことがないテーマについても考えたりする機会になった。



高等学校
発表者の声

普段高校内で発表する機会が多いが、様々な世代の人がいる状況での発表が新鮮な体験だった。また、それぞれの世代から見た課題設定からの探究が興味深かった。



一般部門
発表者の声

中高生のレベルの高い探究の発表を聞いて、探究心あふれる優秀な生徒たちが地元で働きたいと思える魅力的な会社に見えるよう精進していきたいと感じた。

様々なフィードバックから考えを深める

主催者からは、正解がないことを探究しているからこそ、発表会を通じて、多くの考え方や価値観に触れ、自身の考えを深めるきっかけにしてほしいと話があった。各発表が終わると、審査員からはその場でフィードバックが送られた。来場者は記入用紙や入力フォームを使い、それぞれの立場から感じたことをフィードバックした。それらは後日発表者の元に届けられるようになっていく。

【実際のフィードバックの例】

- ・もっとターゲットを明確にしたらどうか
- ・利用者側の視点に立ってみたいかどうか
- ・地域のお祭りで売ってみてはどうか
- ・地域住民にヒヤリングをしてみてもどうか

各賞の受賞者・発表者

【優秀賞】

- ・ 中学校部門
両小野中学校1年生グループ
「両小野地区の子どもたちの安全を考える」
- ・ 高等学校部門
東京都市大学塩尻高等学校2年生グループ
「日常で使える電動バイクの製作」
- ・ 一般部門
信州大学4年生 高橋 幸一 さん
「塩尻市をテクノロジーで盛り上げる」

【市民特別賞】

- 塩尻志学館高等学校3年生
「ロス活大作戦！」

【その他の発表者】

- ・ 塩尻西部中学校1年生グループ
- ・ 両小野中学校2年生グループ
- ・ 東京都市大学塩尻高等学校2年生グループ
- ・ (株)レゾナック・セラミックス 小松 達哉 さん

◆ お問い合わせ

共創共学プラットフォーム事務局 (NPO法人MEGURU)
塩尻市教育委員会事務局学校教育課 (0263-52-0280 内線: 3112)

キャリア教育新聞

No.14

2026年3月
発行

共創共学
プラットフォーム
(塩尻市教育委員会委託事業)

探究の基礎を学ぶ

塩尻志学館高校1年生の学び

三月六日(金)、長野県塩尻志学館高等学校にて、一年生による地域課題探究学習「シオジリ学」の成果発表会が開催された。

「シオジリ学」は、総合学科の必修科目「産業社会と人間」の柱となる取り組みで、教職員が「第六次塩尻市総合計画」を読み解き設定した十のミッションを起点に学習を展開。生徒たちは、各ミッションから「将来の塩尻市はどうあってほしいか」という自らの「ありたい姿」を導き出し、その実現のために何をすべきかを具体的な探究テーマに据えて、昨年十月からグループ活動を続けてきた。

会場には、一年生全生徒のほか、各グループのアドバイザーを務めた塩尻市役所八部署と二団体の担当者など、約三百名が集結した。前半のポスターセッションでは、大体育館の壁面に掲示された資料をもとに各班が熱心にプレゼンテーションを行い、後半には代表グループによる全体発表が行われた。

堀内校長は講評で、「地域の皆様のご協力により、現在の形での『シオジリ学』が定着して五年目を迎えました。今日の発表からは皆さんの大きな成長が感じられ、三年次で行う個人研究の基礎がしっかりと身についたと確信しています」と生徒たちを激励。半年間にわたる息の長い学習を終えた生徒たちの顔には安堵と充実感が溢れていた。



▲ポスターセッションの様子

約半年間、仲間と共に探究をしたシオジリ学が終わりました。意見が上手く噛み合わないなど、大変な事もありましたが、最終的には形ある物へとまとめる事ができました。



生徒の声

塩尻市の抱える問題を自分ごととして捉え、課題に取り組む生徒たちの姿が印象的でした。解決策を模索する中で、生徒ともに塩尻市について多くを学ぶことができました。



教員の声

研究部会

塩尻市キャリア教育委員会は今年度、委員会内に新たに「研究部会」を設置した。

十八名の委員は希望に応じて三つの部会に分かれ、年度内に二〜三回の会合を持って研究を重ねた。

活動を通じ、学校や校種の枠を越えた委員相互の有意義な交流の場となった。

【部会名と所属委員学校種内訳】

- 小学校研究部会 (小学校5名)
- 企業見学・職場体験研究部会 (小学校3名・中学校3名)
- 探究型キャリア教育研究発表会研究部会 (中学校3名・高校4名)

【小学校研究部会】

○活動の目的

「塩尻市版小学校キャリア学習の手引き」作成を目指し5名の委員が指導案の作成に取り組む

○活動のねらい

赤井友美氏(塩尻市キャリア教育アドバイザー)より、小学生段階に求められるキャリア意識について助言をいただく中で、委員は所属する学校の推進計画に位置付けて指導案を作成し交流を行う。

○活動の成果

5つの指導案が作成された。後日、市内小学校に配布予定。

◆お問い合わせ

共創共学プラットフォーム事務局 (NPO法人MEGURU)
塩尻市教育委員会事務局学校教育課 (0263-52-0280 内線: 3112)